函館 ハリストス正教会

2020年11月　第81号

発行者：函館ハリストス正教会　長司祭ｸﾘﾒﾝﾄ児玉慎一
〒040-0054　函館市元町3-13
TEL(0138)23-7387／FAX (0138)23-7939
URL　http://orthodox-hakodate.jp
Email　frclement205@gmail.com
編集者：会報編集委員会　郵便振替　02660-5-1721

神の慈憐　～善なるものの源～

私たちの言動はとかく自分を中心にして行われがちです。「他人よりも自分」という思いにいつの間にか陥りやすいものです。そのような自らの言動を認識して改めることは本当に難しいことです。

私たちは易き方へ流れて行きます。例えば、「爾の敵を愛し、あなたの隣人を愛せよ」という大切な戒めを、初めに心から自分を省みてそのような愛がいかに無かったかと気付いて深く悲しむよりは、自分の取り組み易い所までその戒めのハードルを下ろしてそれで良しとしてしまうというようなことが多いのではないでしょうか。自分を中心に見て、都合の良い解釈をしてしまいがちです。

ニュッサの聖グリゴリイは「人間が欲し、見る働き、意志活動は自己を評価基準として何が良いものかを定め、それを自分から出たものとする。この時人の欲求こそが善の根拠となる。また見る知るという知性の働きは、自分だけの狭い枠組みによって対象を構成し、制御する。その時に知性が絶対的な根拠となって、そこで見られ知られた対象は知性の構成物と考えられるから、何ら超越性を持たない。このようにして万物の根拠すら人間の意志の所有や制御対象、知性の勝手な構成物になりかねない。」と言われました。こうして人間の知性ばかりを信頼して自己中心主義に陥ると言うのです。

ではどのようにこの状況を脱するべきでしょう。その際に大事なことは自分の欲求を神に倣って浄め、自分の知性の限界を知ることと言われます。つまりすべては私たち自身から出るのではなく、神の慈憐から出たものであると自覚することです。私たちの欲求や知性の働きは本来神、全能者から授けられたものです。私たちに注がれる神の慈憐は善なるもの、全てのエネルギーの源泉であると明らかになれば、私からと思っていた欲求や知性は無となって、父なる神に聴き従い、私たちの歩みを支えているこの無尽蔵の慈憐にますます与って行くというのです。こうして私たちは謙遜な者に変じられてて自己中心の殻を破る可能性が広がることでしょう。（K）

聖堂保存修理工事の最終設計ほぼ固まる

10月8日㈭、信徒会館において教会、函館市、北海道、文化庁、文建協の担当者が集まって、ほぼその工事内容が固まった聖堂保存修理工事の仕様の確認が行われました。文化庁からは新しく文化財調査官として担当となった野村光広氏が来られ、工事の詳細な説明や教会側からの要望等を聞いていただきました。2年間にわたる工事がどのような形で行われるかをご報告します。

▼▲　国、道、市の担当者と打合せ

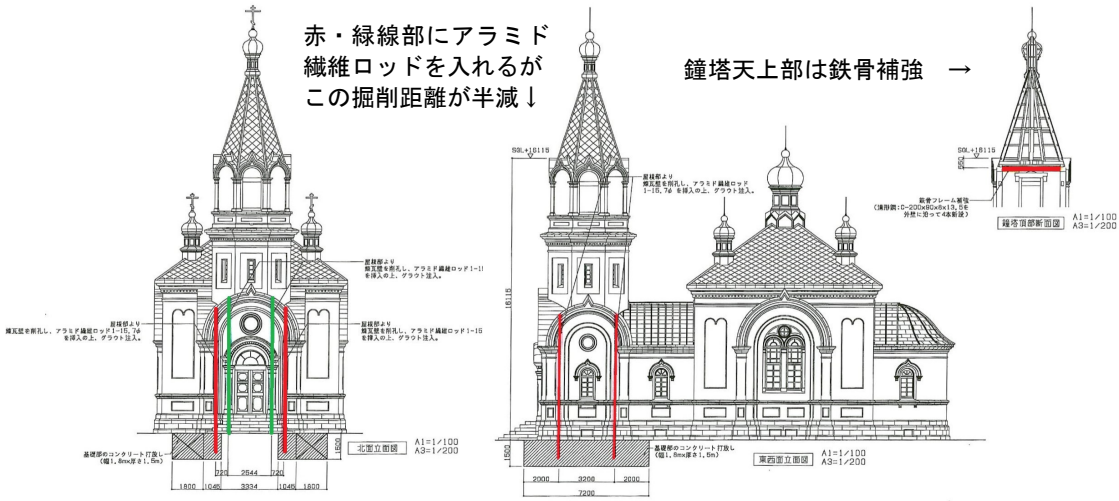
最終的な工事設計ではいくつかの計画変更が行われることが最初に説明されました。

［変更箇所］

- 耐震補強位置の変更（鐘塔頂部から地下まで壁を焼く20mボーリングする計画から、中間部から地下までと短縮する）
- 強風対策を強化し、工事用足場を変更（養生シートの外側に幾重にも補強足場を組み、シート印刷は行わず）
- 塗装関係、壁掛けイコン取り外し、電気設備更新と新設等の変更（教会要望を取り入れる）

これらの変更によって耐震、情報発信関連予算が縮小されて総工事費は4千万円ほど圧縮され、また他の聖堂保存関連の工事に予算を配分する余裕が生まれることとなりました。

工事は大きく耐震、聖堂保存修理の2種類の工事になります。耐震工事では聖堂玄関（唯一の建物出口）周辺を大地震



でも崩れない耐震化を図り、安全を確保するために鐘塔の壁内に開けられた掘削穴にアラミドロッドと言われる補強材を充填し、新たに設けられる地下のコンクリート基礎に連結する工事が行われます。壁内部で行われる補強なので外観に変更はありません。

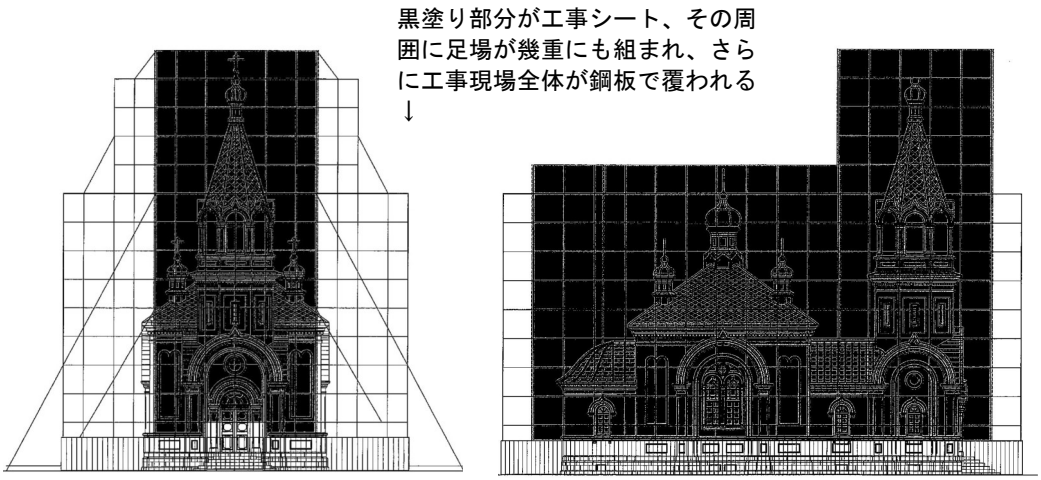
一方、聖堂保存修理は多岐にわたり、30年前に行われた保存工事を上回る規模で行われます。1.屋根、2.外壁、3.イコノスタスとイコン、4.建具と内装、5.内壁、6.電気防災設備がその対象です。

1.屋根ついては、現在の屋根が葺かれて約40年が経過し、屋根部の工事で取り外して再利用するには劣化が進みすぎていることから、全面銅板屋根の葺き替えを実施します。ただ現在のような緑青のふいた緑色の屋根を再現するには単に純銅板を葺くだけでは難しく、今回は化学的に表面加工した特殊な銅板を使用します。初めからある程度緑青がふいているもので、東京の迎賓館などの改修でも使われた手法だそうです。2.外壁に関しては、特に鐘塔部での剥落が毎年のように繰り返されていることから、漆喰材料や施工の現実的な対応をこの度文化庁は認め、剥落しづらい工法で修理し、他の外壁の漆喰も全面的に修復することになります。3.イコンとイコノスタスは洗浄します。4.建具と内装では、窓枠や扉などを取り外し再塗装して、金具類を調整し、床面のゴザや王道絨毯は新調します。5.内壁は壁・天井面の化粧直しをし、6.電気防災設備ではコンセント、スイッチ類、煙感知器を新調し、照明をLED化、その他に聖堂出口に照明スイッチ、王門スポットライトを設けます。

仮設工事については、当初聖堂を覆うシートに印刷し、工事期間中も聖堂の様子が分かるようにする予定でしたが、強風対策による足場の変更、大型重機搬入が困難なことなどにより断念しました。代わりに工事期間中に訪れる方々への情報発信として聖堂と保存修理に関する掲示板やプリント類を充実させます。

工事期間中は信徒会館を仮聖堂として諸奉事は通常通り続けられます。その頃祈祷後の集会が可能かどうかは分かりませんが、会館としての機能もこれまで通りです。少し手狭になりますが、パーテーションで区切るなどして両立させていきたいと考えています。

以上が、聖堂保存修理工事に関するご報告です。工事終了後に見違えるほど美しく生まれ変わる聖堂を楽しみにしながら、それまでの間に様々な教会活動の見直しとテコ入れをして、修復成聖された聖堂とともにこれまで以上に私たち個々の信仰が育まれ、多くの方々との交わりが持てるようにして参りたいと思います。どうぞ皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。



函館西高校1年生の課外授業行われる 10/20,23

10月20日㈫と23日㈮の両日、教会に隣接する函館西高校の1年生23名が学校周辺地域の探求をテーマとする「総合的な探求の時間」の課外授業で当教会を訪問しました。

20日は主に教会の歴史と正教の信仰について神父から講話を聞き、生徒からも質問を受ける講義形式で進められました。23日は鐘やイコン、聖堂を見学し、それぞれの意味や仕組みを学びました。

地域の歴史を学びやそこに暮らす人々と交流することは大変大切なことと思います。教会としても色んな分野で学生や地域に住む人々との接点を探っていきたいものです。

文化財パトロールの実施

10月16日㈮午前、北海道教育員会と函館市の文化財課施設管理担当者が聖堂の様子を視察するために来訪されました。

毎年秋に行われているパトロールで文化財の適正な保護や保管理を図ることを目的として実施されているものです。

教会墓地の整備

私たちの教会墓地はカトリックの女子修道会の教会墓地に隣接しており、ずいぶん昔にその境界にコンクリートのブロック塀が設置されました。長い年月をかけて自然に塀には蔦が絡まり、ずい分成長して幹も枝も太くなりました。塀自体への負担が増してきましたので、今回アキラ松原兄のご奉仕で根本から伐採し撤去しました。

旧ロシア領事館の存続　―　売却か保存かで揺れる　―

船見町の旧ロシア領事館は、帝政ロシア時代の領事館として唯一現存する建物です。1858年に開設されたロシア領事館は1860年に当教会境内に建立されましたが1865年に焼失。1870年以降は事実上閉鎖されました。北洋漁業の勃興により再開し現在の建物は1908年に建立、1944年まで使用されました。1965年から「函館市立道南青年の家」に改装され1996年まで約37万人に利用されたそうです。

建物は函館市の所有でこれまで改修費用を工面できないまま放置されていましたが、今年2月に建物を民間事業者に売却する方針が明らかにされました。市は売却でも歴史的建造物の保存活用が可能と判断したと説明していますが市民の中には建物の思入れのある方も多く「市民の思いをくんでいただける業者に上手に売却してもらいたい」とか、市の売却方針に反対し売却以外の方法の模索や文化財への指定などを求める要望をする方もあります。

貴重な建物が今後も上手に生かされるよう十分に話し合って良き解決方法が見つかることを願っています。

SNSの活用を模索中

教会のホームページ更新を機会に、現在いわゆるSNS（ソーシャルワーキングサービス）の活用に取り組んでいます。運用を始めているのは、フェイスブック、インスタグラム、ツイッターですが、まだまだその機能を熟知していないので、有効な活用方法を模索中です。

これらのSNS上では旅行者や市民が当教会に関する様々な写真や記事を沢山投稿していますが、私たちの側から教会の日常や出来事を積極的に紹介することで、正しい情報を発信し、教会の諸活動にも関心を持つ人を増やす可能性があると思います。

試行錯誤が続きますが、皆様からもご意見やアイデアをお寄せください。

執事会報告

日時　令和2年10月18日㈰　午後12時45分～2時半
場所　信徒会館執事会室

項　　目	内　　容
報告事項	・9/24㈭諸規則検討委員会（東京） ・27-9/26　北海道ブロック宣教会議（小樽） ※新宣教委員紹介、前回会議報告、変更された旅費規程説明、各教会活動報告、次回研修会を宣教会議に差し替えてリモート会議の試み、今後の聖歌研修会を討議する。 ・10/8㈭文化庁新担当官訪問（工事最終案の説明） ・10/9㈮NHKテレビ取材 ・10/14㈬　道新取材 ・10/16㈮　文化財パトロール ・ジニーエナジー（電力会社）との契約完了　10/22～切替開始 ・聖堂保存修理工事関係（工事内容の周知、最終設計案の概要） ※TV、新聞、雑誌等の取材続き、よく周知できつつある。最終設計案については次号教会報にて詳細に報告。
予定	・10/20,23　西高生徒課外授業 ・11/5㈭　ベラルーシ大使来訪 ・11/28-29　北海道ブロック宣教会議（函館） ※婦人会に負担かけず、弁当、茶菓等の用意にとどめる。
協議事項	・市民クリスマスの実施について ※コロナの発生はないが社会情勢を見ても例年のように訪問者が密になる市民クリスマスは危険を冒さず今年開催を見送る。 ・仮聖堂の設置とローソクの変更について（仮宝座組み立て、配置他） ※仮宝座については上磯の大祭台を借り受け、かわりにこちらから代替えの祭台を提供する。仮聖堂への移動物品、配置についての概要を説明。 ※現在のローソクから蜜蝋のローソクへ変更してみる。仮聖堂の会館での奉事に使用して、煤の出具合やコストなどを検討する。 ・伝道会の実施について ※工事期間中こそ工事後の諸活動を見据えて準備を進める期間と考える。信徒、一般人向けの伝道会を来年1月から定期的に始める。
その他	・教会規則見直しについて ※2014年に教団規則委員会から規則改正案が提示されている。これに則り、実情の変化した現在に合わせて改正を図るべく検討する予定。 ・来月の日程 11/1　聖名日モレーベン　11/8　上磯巡回 11/15　定例執事会　11/28-29　北海道ブロック第2回宣教会議

函館正教会献金報告

2020/9/30～2020/10/27分　　※敬称略

日付	種　類	氏　名	金　額	日付	種　類	氏　名	金　額
10/3	感謝献金	後藤　力	30,000	10/21	感謝献金	宇留賀佳代子	3,000
10/3	感謝献金	横浜吏郎	30,000	10/21	車両成聖	坂下洋光	10,000
10/3	感謝献金	及川　信神父（京都）	5,000	10/21	墓地祈祷	品川剛慶	10,000

【聖名祭献金】

下田行孝、下田節子、太田めぐみ、入間川三弘、高井醇子、松井勘太郎
大谷雅子、村井良行

【敬老感謝献金】

花野英昭、下田行孝・節子、高島昭子、山崎和加子、手塚羊子
森久子・幸子、森征一・もと子

11月の聖名祭

聖名日が11月の方々の聖名祭モレーベンを11月1日(日)に聖体礼儀に続けて行います。
是非ご参祷下さい。

聖名日	聖　名	氏　名
11/5	イヤコフ	薄井勝也
11/11	アナスタシヤ（ロマ）	薄井彩那、斎藤直子、村岸いづみ
11/12	アナスタシヤ（ソルン）	高島えみ子
	ジノヴィア	成田道子
11/16	ゲオルギイ	入間川伸弘
11/26	イオアン	鈴木　健
11/29	マトフェイ	太田健一
11/30	アンドレイ	西村和浩

婦人会より

お当番さん、宜しくお願い致します！

◎11月のお当番 … カルリスタ高井和枝姉、エリザベタ森田泰子姉
（食事当番はありません。お掃除などをお願いします。）

10月の教会日誌

いつの間にか秋も深まり、朝晩冷え込む季節となりました。今月は聖堂工事の取材が相次ぎました。

10/8(木)　聖堂保存修理工事の新しい文化庁担当官野村氏が来訪。市や文建協の担当者と共に工事の詳細について確認しました。
10/9(金)　NHKニュースのTV取材があり、聖堂工事に入ることが道南、全道、全国にも伝えられました。
10/14(水)　北海道新聞の取材があり、11月に日曜版に掲載されます。
10/16(金)　北海道教育委員会の担当者が「文化財パトロール」で訪れました。
10/20(火)　朝日新聞の取材がありました。
10/20,23　お隣の函館西高校1年生の課外授業が聖堂で行われました。
10/28(水)　教会車定期点検。冬タイヤに履き替えました。
10/29(木)　教会の防災設備点検が行われました。

11月の奉事・行事予定

31日(土)	函館	17:00	主日徹夜祷　第4調　福音経：イオアン66端　21:1-14
1日(日)	函館	10:00	五旬祭後第21主日聖体礼儀　誦経：下田兄 使徒経：ガラティヤ　203端　2:16-20 福音経：ルカ　35端　8:5-15 **●聖名日モレーベン**
7日(土)	上磯	19:00	主日晩課　第5調
8日(日)	上磯	10:00	五旬祭後第22主日聖体礼儀　誦経：坂下兄 使徒経：ガラティヤ　215端　6:11-18 福音経：ルカ　83端　16:19-31
	函館	10:00	主日代式祈祷　誦経：下田兄
14日(土)	函館	17:00	主日徹夜祷　第6調　福音経：マトフェイ116端　28:16-20
15日(日)	函館	10:00	五旬祭後第23主日聖体礼儀　誦経：下田兄 使徒経：エフェス　220端　2:4-10 福音経：ルカ　38端　8:26-39 **■定例執事会**
21日(土)	函館	17:00	主日徹夜祷　第7調　福音経：マルコ70端　16:1-8
22日(日)	函館	10:00	五旬祭後第24主日聖体礼儀　誦経：下田兄 使徒経：エフェス　221端　2:14-22 福音経：ルカ　39端　8:41-56
28日(土)	函館	17:00	主日徹夜祷　第8調　福音経：マルコ71端　16:9-20
29日(日)	函館	10:00	五旬祭後第25主日聖体礼儀　誦経：下田兄 使徒経：エフェス　224端　4:1-6 福音経：ルカ　53端　10:25-37

編集後記

日に日に寒くなってきました。司祭館裏のナナカマドの木はすっかり葉が落ちて、眼下に広がる函館港の風景がよく見えるようになりました。

冬に備えるように、聖堂の工事にも備えが必要です。来るべき春、工事竣工の時に、蓄えた力を発揮して一層の発展があるように努めたいものです。（K）